

しま じり もと じま

島尻元島とシナカガー



島尻コース

島尻元島は、^{しゅうらく}集落の^{はっしょうち}発祥地と^{つた}伝えられています。^{さいこうしん}最高神を^{まつ}祀る^{ムトゥ}ムトゥがあり、^{めん}パーントウの^{おさ}面が^め収められています。^{げんざい}現在の^{ほっぽう}集落^{うみ}北方の^つ海に^だ突き出した^こ小^{たか}高い^{おか}丘に^い位置し、^で出入口^{りぐち}付近には^{せん}戦前^{ぜん}まで^{いしづ}石積みの^{もん}アーチ門^{もん}がありました。いまは^{ぜん}全^せ世帯^{たい}が^{はな}離れ、^{やしきあと}屋敷跡^{のこ}だけが^{はな}残されています。

また、^{みなみ}元島^{はな}から^{はな}南へ^{200m}200mほど^{はな}離れた^{はたけ}畑^{なか}の中に、^{じゅうみん}住民^{しやう}が^い使用^いした^{かんが}井戸^{かんが}と考えられている^{シナカガー}シナカガーがあります。



宮古島のパーントゥ(島尻)

ユネスコ無形文化遺産

2018(平成30)年11月29日登録

来訪神：仮面・仮装の神々



島尻のパーントゥさいし きゅうれぎ はじ おこな祭祀は、旧暦9月初めに行われています。パーントゥとは異様な形相をした仮面神いよう ぎょうそう かめんしんのことで、面をつけたパーントゥ3体が、全身に巻きつけた蔓草たい ぜんしん ま つるくさに泥をまとい、集落しゅうらくを練り歩きながら新築の家や出会った人々に泥ねを塗り付けて厄払いやくばらをします。

仮面神あらかが現れる祭祀は上野野原うえののぼるにもあり、2018(平成30)年に、あわせてユネスコ無形文化遺産むけいぶんか いざん どうろくに登録されました。

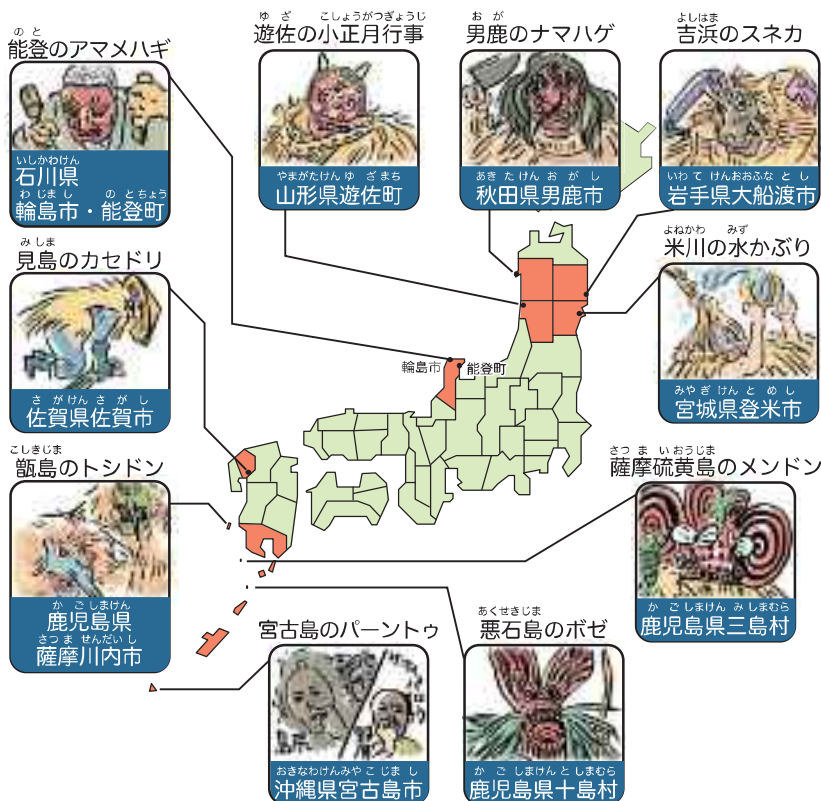


パートゥとともに登録された来訪神たち

東北から沖縄までの8県10種の行事が、「来訪神：仮面・仮装の神々」として、2018年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されました。

来訪神とは、決まった時期に人々の世界に来訪し、実り豊かな作物や幸福をもたらす神のこと

され、日本各地で伝承されてきました。仮面をつけたり仮装をしたりなど、異形の姿で人間とは異なる存在だということを表現しています。来訪神の信仰は世界各地で広く行われており、日本でも盛んです。



しま じり だん そう がい かい しょく だい

島尻断層崖と海食台



写真：安谷屋昭

宮古島の地層は、上部に水を通しやすい琉球石灰岩などからなる琉球層群が、下部に水を通しにくい泥岩や砂岩からなる島尻層群が堆積しています。島尻断層崖は、およそ650万年前に堆積した島尻層が高さ5～25m、長さ約400mに渡って地表に現れており、地殻変動でできた断層や褶曲も間近で観察できます。

また、遠浅の海底はその時代の泥岩層が続く、海食台となっています。



か せき

シマジリクジラ化石



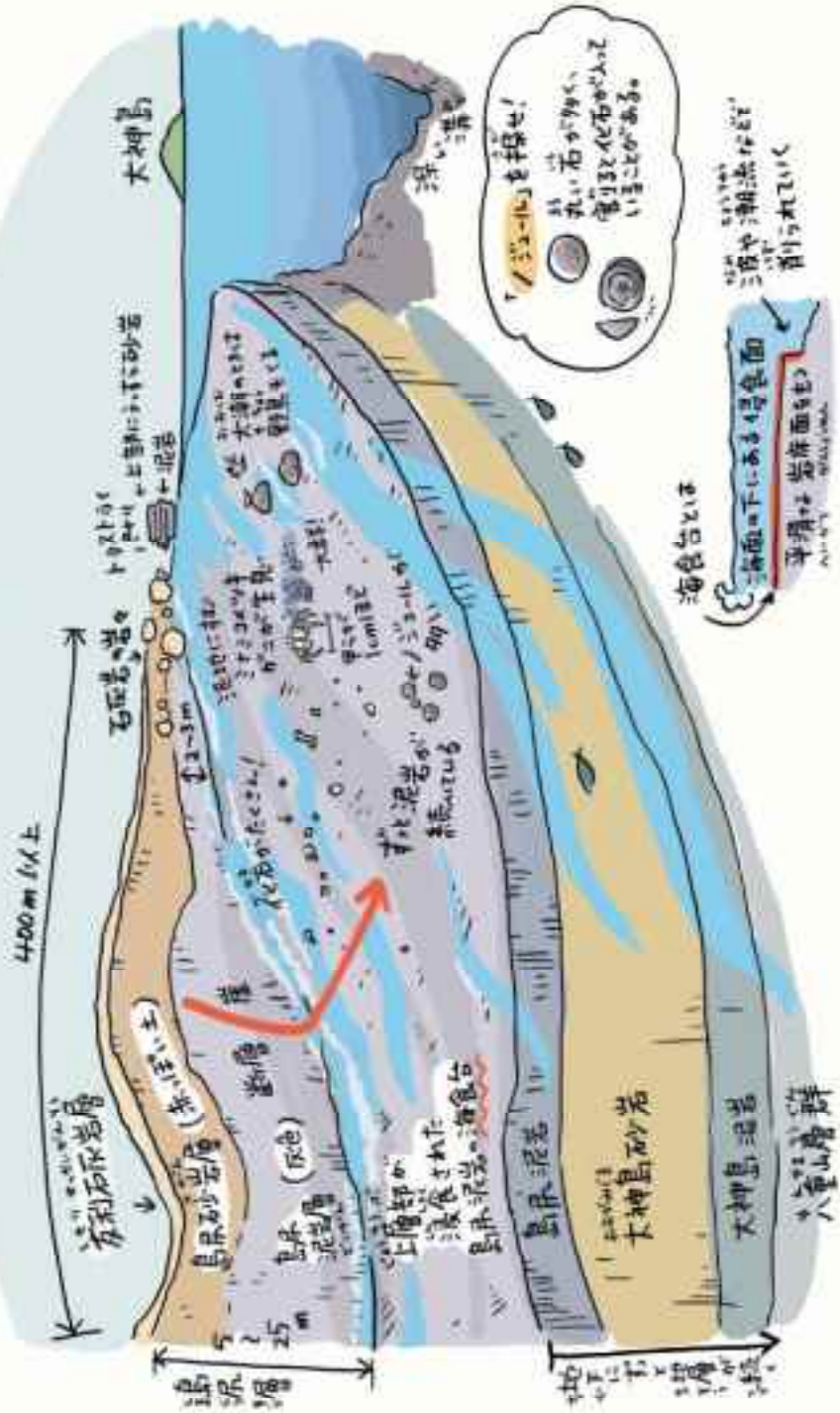
島尻コース

この化石は、1973(昭和48)年に始まった沖縄第四紀調査団により、島尻海岸の海食台の波打ち際で発見されました。今から約200~600万年前の化石とされます。ヒゲクジラ亜目ナガスクジラ科の仲間とされますが、詳細ははっきりせず、島尻海岸から発掘されたため、シマジリクジラと仮称しています。

化石は、宮古島市総合博物館に収蔵・展示されています。

宮古におけるクジラの化石は、この他に城辺地域で仲原化石が発見されています。

可 かい しま じり だん そろ かい かいしよく だい
図解！ 島尻断層崖と海食台



しま じり

りん

島尻のマンングローブ林



島尻コース

島尻のマンングローブ林は、奥行き約1 kmの入り江に発達し、宮古諸島の中で最大規模の群落で、『環境省日本の重要湿地500』にも選ばれています。ここには宮古を北限とするヒルギダマシを含め、2科4種が確認されています。河川のない宮古諸島で発達するマンングローブ林は植物地理学上とても重要で、海の森とも呼ばれる特殊な生態系は、様々な生き物のすみかになっています。



大神コース

散策コース

所用時間: 徒歩約1時間
(約2km)

宮古へ渡ってくる神は大神島を足がかりにしたとされる

昔の船着場だった浜

干ばつの時は、燃料タンクに雨水を貯めたり、宮古島まで運んで来た水を運んでいた。

島尻港へ

※島全体が聖地のため、散策道以外の敷地や山林に許可なく入ることは禁じられています。

遠見台として明確な物はなく、頂上の平坦な部分一帯を大神遠見番所としている

先島諸島火番盛(遠見番所)
大神遠見番所 P50

標高74.7m

フディ(フデ岩)

大神島の倉りせ神とされる大御神が祀られる

大御嶽

貯水タンク

カフカヌカー

ウブヤヌカー

ナカムトウカー

宮古が一番古い地層。「大神島層」の露出する崖。埋め立て後、草木が茂り、見えなくなっている。

ウブミーカヤマ

埋立地

多目的広場

公民館

フタカー

大神小中学校跡

トウヌクティ

ウブシ

堤防の一部が壊れ、長間が遡行できる。

昔、城辺の長間の女に小屋を建て、泊まり込みで漁をした。馬が、今も長間に感謝する燈籠が行われた。

東平安名崎

長間



おお がみ じま

大神島



大神島は島尻の北約4 kmに位置し、標高74mの山腹の南斜面に集落が形成されています。人口は1960(昭和35)年頃の245人がピークで、現在は20余名が生活しています。この島では宮古島の一番古い地層を見ることができます。1977(昭和52)年には、カミカキスと呼ばれる現在の多目的広場で、ゾウ類の化石が発見されています。

いまでも秘祭である祖神祭が残されており、島の人でも立ち入れない所が多く存在し、島全域が神聖な場所です。

ひ さい そ しん ざい
秘祭 祖神祭(ウヤガン・ウヤーン)

祖神祭は、^{おおがみ}大神、^{しまじり}島尻、^{かりまた}狩俣の
^{ちいき}3地域で行われる秘祭で、大神が
^{きげん}起源とされています。大神と島尻
 は「ウヤガン」、狩俣は「ウヤ
 ーン」と呼んでいます。

この祭祀は、祖神を迎え入れ、
^{しゅうらく}集落に^{ゆーほうじょう}世(豊穰)が^み満ちるように祈
^{がん}願します。大神は旧暦6～10月、
 島尻と狩俣は旧暦10～12月の間に
^{すうかい}数回にわたって行われます。

祖神祭は夜通しで山籠もりなど
 が行われ、その間^{しんじょ}神女たちは一睡
^{みず}もせず、水と塩だけを^{しお}とって神と
^{かか}の関わりを^{つづ}続けるといいます。

秘祭のため、具体的な内容はほ
 とんど知られていません。

かつては大神の祖神祭が終わる
^{しゅうりょう}と、終了の合図として遠見台から
 のろしが焚かれ、それを受けてか
^{さいじつ}ら島尻と狩俣は祭日を決定してい
^{けつてい}ました。そして両集落ともに祭祀
 が終わると、終了の合図としての
^あろしを^{つた}上げ、大神に伝えていたと
 いいます。

島尻と狩俣では、2000年頃から
^{こうけいしゃ}後継者不足により祭祀が途絶えて
^{とだ}いますが、大神では現在もなお続
^{げんざい}いています。

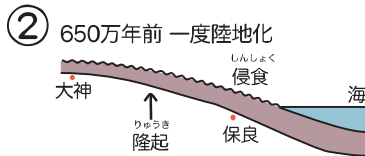
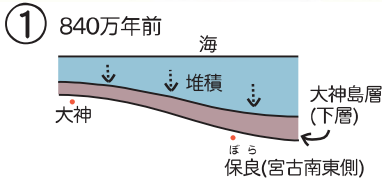


大神
 コース

堆積物からわかる島の隆起

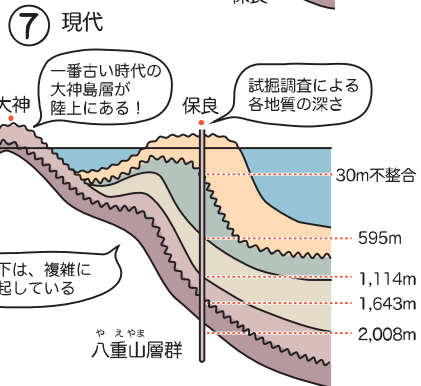
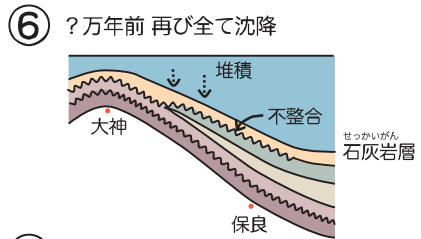
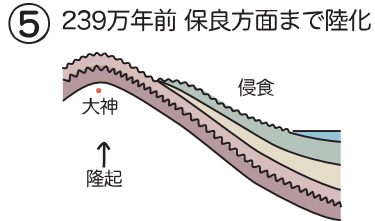
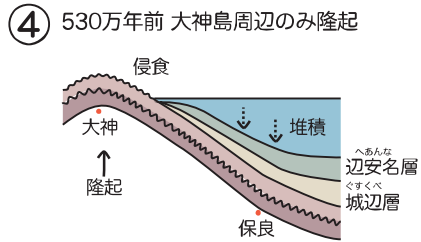
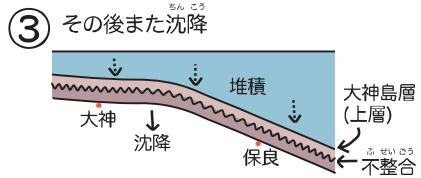
おおがみじま なか いちばんふるちそう
 大神島は、宮古の中で一番古い地層が
 かんさつ ばしよ よう
 観察できる場所です。堆積物や地層の様
 す むかし しゅうへん あさ かいてい
 子から、昔は大神島周辺は浅い海底で、
 りくち ちが ないわんせい かんきょう かんが
 陸地に近い内湾性の環境だったと考えら
 れています。その証拠に、近くに陸地が
 なければ運ばれてこない淡水産のスポン
 ン化石やおおきな礫が発見されています。

そして、おきから20~30km離れた、水
 しんすうひやく しんかい なんとうがわ
 深数百mほどの深海に、宮古島の南東側
 があったと考えられています。



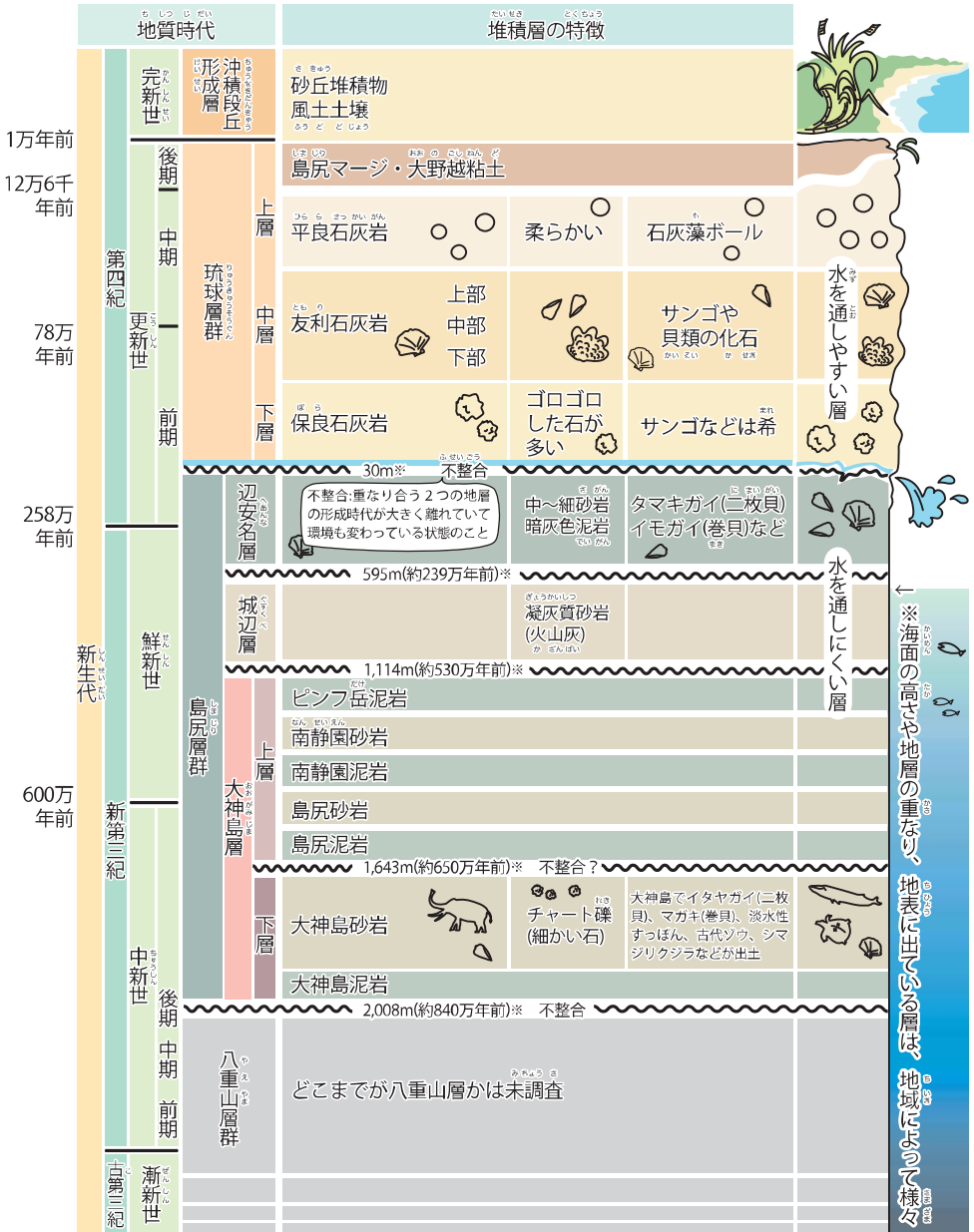
不整合：重なり合うふたつの地層の形成時代が大きく離れていて環境も変わっている状態のこと

※堆積の様子はイメージです



宮古島の一般的な地層

(監修:安谷屋昭氏)



※保良地区(★の場所)で得られた地質の深さと年代

宮古島保良地区「天然ガス資源活用促進に向けた試探調査事業(宮古 R-1 坑井, 2014)」、
「沖縄県・宮古島におけるストロンチウム(Sr)同位体年代(加藤進, 2016)」より

先島諸島火番盛 (遠見番所) 池間・狩俣・島尻・大神



池間



狩俣



島尻



大神

先島諸島火番盛は、先島諸島(宮古・八重山)に19か所点
する遠見番所群です。火番盛とは「火を焚く丘」というような
意味をもちます。通信手段が発達していない時代の一番早い伝
達方法は「烽火」でした。火番盛は船の往來を監視し、烽火に
よって番所や蔵元を通して琉球王府へ知らせる機能を担って
いました。昼夜、遠見番が交替で海上監視にあたっていたと伝え
られています。宮古諸島ではこの他に、来間と砂川、多良間
(3か所)の遠見番所が国の史跡に指定されています。

こくりつりょうようじょ みやこなんせいえん
国立療養所 宮古南静園



1907(明治40)年、「癩予防二関スル件」(法律第11号)が制定され、日本のハンセン病患者の法的な隔離が始まりました。宮古南静園は、1931(昭和6)年ハンセン病療養所「県立宮古保養院」として開院され、収容定員40人に対し15人の入所者から始まりました。

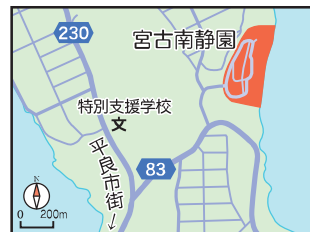
ハンセン病は「伝染する怖い病気」とと誤解され、入所者らは想像を絶する差別を受けました。当時は官民挙げてのハンセン病対策だったため、施設の管理体制は厳しく、周囲は有刺鉄線が張り詰められ収容所と変わらず、患者の人権や自由は全くありませんでした。

戦時中、南静園も壊滅的な被害を受け、管理者は逃亡し、入所者が作った園内の避難壕や食料は日本軍に接收さ

れました。そのため海岸線の自然壕や雑木林で過酷な生活を余儀なくされ、栄養失調やマラリアなどで1年で100名以上の犠牲者が出たといえます。

1996(平成8)年、「らい予防法」がようやく廃止され、およそ90年間にわたって誤った隔離政策を続けたことを国は認め、謝罪しました。

2016(平成28)年、ハンセン病の歴史と平和の尊さを学び、交流できる場として園内に「人権啓発交流センター」が開館しました。



いし かべ つか
石壁などに使われたビーチロック

げんざい しまじり ひがしかいがん おおうら きたかいがん いしきりば かくにん
 宮古では現在、島尻の東海岸と大浦の北海岸で石切場が確認されていま
 す。石切場とは採石場のことで、島尻と大浦の石切場は海岸部のビーチロッ
 クを切り出しています。切り出された石材は建築材料などに使用されまし
 た。いまはコンクリートブロックなどに代わり、ほとんど残っていません。



島尻の東海岸 (上空より)



大浦の北海岸 (上空より)



切り出し途中のビーチロック



石壁などに利用された

ビーチロック

すな たんさん
 砂の中で、炭酸カルシウムのセメント
 さよう かた かいひん さがん
 作用によって固まった海浜砂岩をビーチ
 ロックといいます。沖縄の海岸でよく見
 られ、なんしつ わ と
 られ、軟質で割り取りやすいため、石材
 としてよく使用されました。



カキス
まだまだある！魚垣

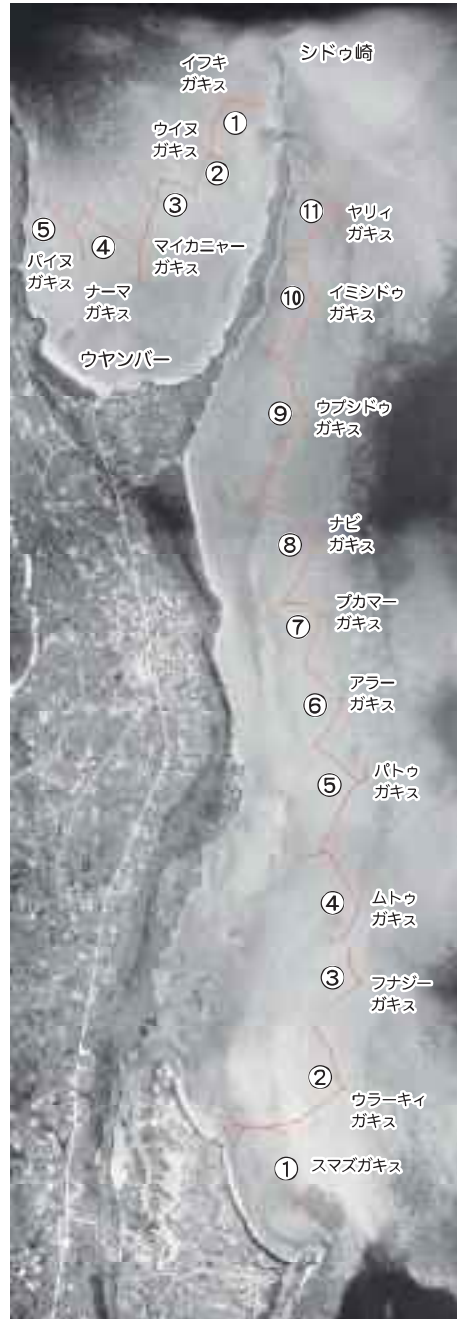
とおあさ うみ つ あ いしがき
 遠浅の海に積み上げられた石垣を
 「魚垣」といい、潮の満ち引きをうまく
 利用して魚を捕る伝統漁法です。

おきなわほうげん
 沖縄方言では、カチ、カキ、ハ
 シ、クミなどと呼ばれ、狩俣では
 「カキス」と呼ばれます。

だい にし へんな ぎき しまじりこう
 1960年代は西平安名崎から島尻港
 周辺までの広い範囲にかけて、16も
 の巨大な魚垣が形成されていました。

あら ぎょう ふきゅう しだい
 新たな漁法の普及によって次第にな
 くなりましたが、いまでも一部にその
 名残を見ることができます。

いらぶしま カツ し ゆう
 宮古では、伊良部島の魚垣が市の有
 形民俗文化財として指定されており、
 まちか かんさつ
 間近で観察することができます。



1963年の航空写真から魚垣と思われる形跡を
 なぞったもの（写真：国土地理院）

にし べ 西辺

おおورا ふくやま にしはら ちいき あた にしべ
大浦・福山・西原地域の辺りを、「西辺」
とも呼びます。これは、この3地域の学区
名(通学区)を指した呼び名です。

宮古の方言で北をニスといい、この地域
が宮古島の北方に位置することから北辺
と呼ばれ、いつしかニスに「西」の漢字があ
てられ、西辺と呼ばれるようになったとい
われています。

大浦地域

集落は現在より西寄りの海岸近く、ヤ
スキと呼ばれる地にありましたが、戦に
巻き込まれて廃村になったと伝えられて
います。いつ頃から人が住み始めたかは
わかっておらず、村立てと廃村を繰り返
し、現在の集落ができました。

『宮古島庶民史』(1957)には、「廃村の
のち、1714(康熙 53)年に大浦村が立て
られた」と記されています。

その後、近隣集落から住人を寄せ、徐々
に栄えていきました。

西原地域

1874(明治 7)年、池間島の人口増加の
ため、琉球王府による強制移住計画のも
と、池間島の分村として西原村が誕生し
ました。分村なので「池枝村」としてい



したが、当時の御検使富川親方に随行し
た西原親雲上が、自分の名を記念に使っ
て欲しいと願い出て、「西原村」と命名さ
れました。西原は池間の風習を色濃く残
し、数多くの祭祀を行っています。

福山地域

1937(昭和 12)年頃、土地改良事業に
ともない、棚福・山川・ピンフ・佐事・トゥ
シガーの5つの小集落が集まって福山集
落が誕生、1964(昭和 39)年に旧大野越
集落が新たに加わりました。集落は標高
95mのピンフ嶺の麓に広がり、伊良部島
まで見渡すことができます。
施設園芸などの農業の盛んな集落とし
て発展しました。

うぶらたす おお うれしゅうらく
大浦多志と大浦集落

大浦集落には、大浦多志と呼ば
 れる唐人の伝説が伝えられます。

『雍正旧記』(1727)に記録され
 る古謡の『唐人渡来にあやぐ』に
 よると、中国から渡ってきて城を
 築いたことや、嘉手苺村のたまね
 くろを妻にして、村の主長となっ
 たことなどが記されています。

また、集落には大浦多志が住ん
 でいたとされる城跡や、大浦多志
 が祀られている御嶽などが存在し
 ます。

しかし、大浦多志の子孫が何代
 続いたのか、誰に滅ぼされたのか
 などは、分かっていません。

かんれん
大浦多志関連の史跡・御嶽



いじゅうきで
移住の決め手になったイーガマとヒダガー



池間から西原へ移住してきた際に上陸した場所が、イーガマという入り江でした。すぐ側に豊かな湧泉、ヒダガーがあったことが西原移住の決め手となりました。

イーガマでは旧暦6月に三ガイが行われます。龍宮の神に豚を捧げると、それを受け取るために龍宮から使いの白い船がやってくるといわれています。



にしはらさんさく
西原散策マップ『んすむら』(2018)より

うはるず う たき いぬ う たき

大主御嶽(西の御嶽)



西
辺
コ
ー
ス

にしはら 大主御嶽は、1874(明治7)年に池間から西原村として分村したことによって、池間と同じ御嶽が建てられました。

さいしん 祭神は「うらせりくためなうの真主」が分祀されています。集落の中で一番格式が高いとされ、数多くある年間祭祀のほとんどがこの御嶽を中心に行われます。

だいじ 集落にとって大事な御嶽であり、むやみに立ち入ることは禁じられています。



にし ばら
西原のマークツツ

西原のマークツツは、旧暦8〜9月の甲午から4日間にわたり行われます。ナナムイヌウヤと呼ばれる50〜56歳の男性が中心となる祭祀です。

2日目にはマスマイのあと、「五穀

豊穰」の旗頭を掲げ、ナイカニ(仲間)御嶽からジャーガマと呼ばれる広場で、ウヤたちが威勢の良い掛け声でクイチャーを踊りながら練り歩き、子孫や村の繁栄を祈願します。



にし ばら
西原のユークイ

西原のユークイは旧暦9月に3日間にわたり行われます。ナナムイヌマと呼ばれる47〜56歳までの女性がユークイに参加します。

ナナムイヌマたちは大主御嶽に籠もり、一睡もせず祈り続けます。

夜が明けると、白い神衣装を着て草冠をかぶり、手草を持って集落内の9つの御嶽を巡拝します。御嶽では世(豊穰)を招き入れる所作を伴う世乞いの歌などをうたい、豊年と健康を祈願します。



うぶら くら
大浦と小浦

おおうらわん たいひ となり ちい くら
大浦湾に対比するように、隣に小さな小浦と
わん にすくら はいくら
いう湾があります。小浦には北小浦、南小浦と
はま おおさき
いうふたつの浜があり、南小浦と大崎のバンク
やまう たき あいだ おおの さんりん ゆうすい なが
山御嶽の間を、大野山林からの湧水が流れ
で
出ています。

さんらん ち
ウミガメ産卵地

せいそく い もの ねら
ここに生息する生き物を狙って、
おお みずどり あつ
多くの水鳥が集まっています。



じょうりゅう そえどう ち
この上流の添道という地に、
ぐんらくち
サガリバナの群落地があります。
みず べ はやし そだ げじゅん ちゅうじゅん
水辺の林に育ち、6月下旬～7月中旬に
かいて かいが なが かじよ
かけて開花し、長さ20～60cmほどの花序が
た さ よ
垂れ下がることから、サガリバナと呼ばれます。

ゆいいつ じせい
添道のサガリバナは宮古唯一の自生群落で、
かんしょうよう しょうさいかぶ ま たいせつ ぼご
観賞用の植栽株と混ざらないよう、大切に保護
ひつよう
していくことが必要とされています。

おおのこしはいすいこう

大野越排水溝（トンネル）



西
辺
コ
ー
ス

大野越排水溝は大野山林に位置し、1934(昭和9)年に建設された鉄筋コンクリート造りの隧道です。延長640mで欠円アーチ形をしており、東坑口は石造アーチ風にデザインされています。この地域一帯は低湿地で水はけが悪く、マラリアを媒介する蚊が多く発生する土地でした。

そこで「大野山耕地整理計画」が策定され、開墾基盤の施設として大野越排水溝のトンネルが建設されました。





憩いの場だけじゃない 大野山林

大野山林

大野山林は、森林率が約16%と低い宮古島にとって重要な森で、210ヘクタールの広さがあります。

この山林は1655(順治12)年、当時の官職にあった下地親雲上恵根によって松の植林が始められました。この頃、島内は建築や船舶用の木材資源が少なく、石垣島から移送していたため、島内で調達

できるようにするのが目的でした。戦前、戦後を通して貴重な森林資源として活用されました。

また、この山林は白川田水源と山川水源の上であり、水源かん養、防風、防潮などの保安林として指定されています。

現在は野鳥の繁殖地や市民の貴重な憩いの場になっています。

宮古島市熱帯植物園

植物園は、1964(昭和39)年に着工され、本土、ハワイ、台湾、東南アジアの各植物園と提携して数多くの樹苗を導入し、また沖縄の各島々に原生する植物を集めて植栽しました。

23.8ヘクタールの園内には、ここで見られない樹木が育ち、様々な生き物が生息しています。



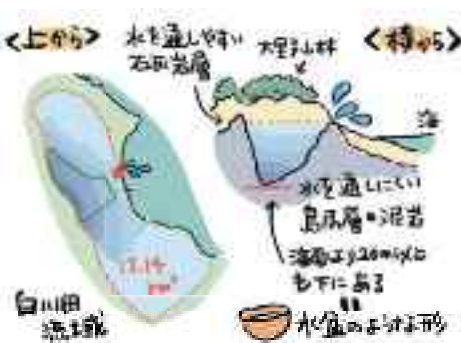
大野山林は「ワサヤマ」と呼ぶ。昔は大野山林と言った。ワサヤマの森だ。



大野山林の下には宮古の大事な飲料水が貯まっている！

大野山林一帯の地下は、水を通じにくい島尻層の泥岩が、水盆のような形になっており、貯まった雨水が白川田から湧き出しています。

白川田水源の流域面積は12.14km²あり、約700万トンもの地下水を貯めることができ、宮古島市民約5万人の飲料水をほぼまかっています。



ぶんかざい たいけいず
文化財の体系図

しゆさい
文化財の種類

から たいか
特に価値の高いもの

とく じゆうぶつ
特に重要なもの

じゆうぶつ
重要なもの

ひつよう
特に必要のあるもの

ほぞん かつよう
保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう
考える必要のあるもの

文化財

ゆうけい
有形文化財
建築物
美術工芸品 工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

してい
指定

重要文化財

指定

こくほう
国宝

世界から見ても
価値が高い、国の宝

とうろく
登録

登録有形文化財

むけい
無形文化財
演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

指定

重要無形文化財

とうろく
登録

登録有形文化財

せんたく
選択

きろく さくせい かんが
記録や作成などを考える
必要のある無形文化財

みんぞく
民俗文化財
有形民俗文化財 無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

指定

重要有形民俗文化財

重要無形民俗文化財

登録

登録有形民俗文化財

選択

記作成等の措置を講ずべき
無形の民俗文化財

きねんぶつ
記念物
遺跡 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地 庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物、植物、地質鉱物

指定

しせき
史跡

指定

とくべつ
特別史跡

めいしょう
名勝

指定

特別名勝

てんねんどうねんぶつ
天然記念物

指定

特別天然記念物

登録

登録記念物

けいけん
文化的景観
地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地 棚田、里山、用水路など

都道府県または市町村の申し出に基づいて選定

重要文化的景観

でんどうたき げんぞうぶつぐん
伝統的建造物群
宿場町、城下町、漁漁村など

市町村が決定

伝統的建造物群保存地区

選定

重要伝統的建造物群保存地区

ぎじゆつ
文化財の保存技術

選定

選定保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

まいぞう
埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

有形文化財
有形のもの
形のないもの

重要文化財

指定

豊見親墓3基
(とみみちのかみかみ)

国宝

登録

治金丸 / 沖縄県
(じがねまる / おきなわけん)

登録有形文化財

登録

旧西中共同製糖場煙突
(きゅうちゅうにしかきょうどうとうせいとうじょうえんとつ)

無形文化財

重要無形文化財

指定

宮古上布
(みやこじょうふ)

重要有形民俗文化財

指定

ウイピヤムトウの祭場
(さいじょう)

民俗文化財

指定

生活に関係したもの

重要無形民俗文化財

指定

宮古島のパーントウ

文化財

記念物

指定

史跡 / 歴史上の名所

遠見番所
(とあひばんじよ)

指定

特別史跡

吉野ケ里遺跡 / 佐賀県
(よしのがりいせき / さがけん)

登録有形民俗文化財

登録

竹富島の生活用具 842点 / 沖縄県竹富島
(たけとみじまのせいこうようぐ / たけとみじま)

人間と自然が作った景色

文化的景観

登録

登録記念物

旧仲宗根氏庭園
(きゅうなかそねしえん)

名勝

東平安名崎
(ひがしへんなざき)

特別名勝

けしき景色のよいところ

識名園 / 沖縄県
(しきなえん)

貴重な自然を記念するもの

指定

重要文化的景観

別府の湯けむり・温泉地 / 大分県
(べっふのゆけむりおんせんち / おおいたけん)

伝統的建造物群

指定

伝統的建造物群保存地区

竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島
(たけとみじまののうそんじゅうらく)

天然記念物

オカヤドカリ

特別天然記念物

イリオモテヤマネコ

文化財の保存に大事な技術

選定保存技術

芋麻糸手績み
(ちまいとてうみ)

埋蔵文化財

埋まっているもの

住屋遺跡
(すみやいせき)

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です
たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト



宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(四島・西辺コース)**

発行

2021年3月

編集・発行

宮古島市教育委員会

〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地

TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光

令和2年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業